

議事概要

内 容：固定資産税の税率見直しに係る市民説明会

日 時：令和8年8月8日（土）14：00～15：20

場 所：比奈知市民センター 研修室

参加者：14名

質疑応答の概要

【質問①】

名張市は昭和の高度成長期の頃に多くの起債を借りていると思いますが、まだ起債を借りる余裕はあるのでしょうか。

【市長】

資料をご覧いただいた通り、名張市は余裕がほとんどない状況です。類似団体と比べても毎年の借金返済や公債費比率が非常に大きく、政策的なことに使える経費がほとんど残っていない状態です。また、将来にわたっても多くの借金が残っており、将来負担比率が県内で唯一3桁にのっています。実質公債費比率は14.9%で、借り入れに国の許可が必要になる基準の18%に近い位置にあります。

【財政担当部長】

国においては、財源不足が生じた場合に、赤字公債、いわゆる特例公債を発行できる仕組みがあります。一方、自治体については、地方財政法第5条のもと、いわゆる建設公債主義という考え方があり、公共施設やインフラの整備・改修など、将来にわたって便益が及ぶ事業について借り入れが認められています。

ただ、それでもなお財源が非常に厳しい場合には、赤字債の発行ができます。

1つは行政改革推進債です。これは、建設公債主義の例外として、行財政改革による歳出削減努力などを前提に借り入れする仕組みです。いわば赤字を補うための借金であり、発行は控えるべきものと考えています。名張市において借金の元利償還負担が非常に重い要因の1つは、過去にこの行政改革推進債をたくさん借り入れてきたことにあります。令和3年度以降、この行政改革推進債の借り入れはやめていますが、なお十数億円の借金があり、その返済が大きな負担となっています。

もう1つが退職手当債です。名張市では、過去にこの退職手当債も借り入れたことがあります。本来であれば、職員の退職手当については、基金を積み立てて備えておくべきものですが、平成14年の財政非常事態宣言以降、その退職手当基金を取り崩してきました。加えて、職員構成の偏りにより、ある時期に多額の退職手当が必要となり、基金を使い果たしたため退職手当債を発行し、その返済も大きな負担となっていました。

赤字債は、一定の許可のもとで発行できる仕組みではありますが、これに頼ってしまうと、将来に負担を残すことになります。

それから、実質公債費比率の基準は、市長からご説明申し上げたとおりです。

夕張市は353億円という多額の負債を抱えて破綻し、その結果、さまざまな行政サービスに大きな影響が生じました。こうした事態を繰り返さないため、自治体を財政破綻させない仕組みとして財政健全化法が設けられ、各自治体は毎年こうした指標を公表しています。

実質公債費比率については18%という基準があり、これを超えると地方債の発行が許可制となります。国の許可を得なければ新たな借入れができず、借り入れするためにはきちんとした健全化の取組を示すことが求められます。

最近では、兵庫県が18%の基準を超えるのではないかと、財政早期健全化団体となる可能性があるのではないかとといった報道もありました。名張市としては、この18%を超えないように毎年度少しずつ比率を抑えてきています。平成27年度頃には15%台後半の水準でしたが、以降、わずかながらでも着実に低下させる努力を重ねてきました。

今後も、この18%という基準を超えないよう、地方債の借入額を適切にコントロールしていきたいと考えています。

【質問②】

名張市が大好きで住みやすいまちだと思っておりますが、これまでの厳しい財政のお話を聞くとどうしても暗い気持ちになってしまいますので、ぜひ頑張ってくださいと思っています。ユニチャームやLIXILといった企業が撤退する中で、企業誘致についてどのように考えられているのでしょうか。私自身も高齢者の一人ですが、若者に名張に来てもらうための魅力づくりの方策などについてもいろいろと考えられているかと思しますので、今後の取り組みを教えてください。

【市長】

私も名張を好きでいただくことが一番大事なことでと考えております。私は、市内の工業団地の事業所を2年かけて回り、雇用情勢や投資予定、撤退の可能性などについて情報収集を行ってまいりました。ユニチャームやLIXILの撤退については直前まで教えてくれませんでしたでしたが、投資や拡張を希望する声も多くいただいております。既に決まっている情報として、ノーベル製菓が新田の工場を百数十億円かけて来年度以降に拡張予定であることを聞いています。一方、ユニチャームの跡地については自社計画がないため、すでにオファーのあった複数の企業を紹介させていただいており、民間同士の課題解決は必要ですが、跡地利用の確定に向けて取り組んでおります。16万㎡と非常に広いLIXILについては、ディベロッパーを通じて今後の整理を行うため、当面個別のオファーを控えてほしいとのご要望を受けています。今月LIXIL本社に出向き、市内企業からの拡張要望についてご紹介してまいりたいと考えています。現在、名張市内の工業団地はすべての土地が売却済みであり、拡張したくても用地がないのが現状ですので、今回、空く土地をぜひ市内の企業に有効活用していただきたいと考えています。

若い世代に魅力のあるまちづくりとして、他県の成功事例にあるような移住や空き家のリノベーションに対する多額の補助金による定住促進をぜひ行いたいと考えておりますが、現

在は財政的な厳しさから十分な財源を生み出せずに苦しんでおります。今回の見直しで得られる財源で移住への投資も行っていきたいと考えています。子育て支援については、市外からの転入者から「きめ細かな支援で育てやすい」と非常に高い評価をいただいております、この魅力をぜひ伸ばしたいと思っています。ただ、要となる産科の再開には、建設に約8億円、設備投資に約2億円合わせて約10億円の初期投資に加え、毎年5,000万円から1億円程度の運営費の補填が必要と言われており、市民の皆さんのご意見もお聞きしながら慎重に判断していきたいと考えております。一方で、イオンの3階にある室内遊び場「のびっこピクニック」が昨年秋にオープンし、現在では、月3,000人から5,000人にご利用いただいております。雨や真夏の暑さの中でも安心して遊べる場所として保護者からの要望に応えて誘致したものであり、利用者の約半分は市外から来られるため子育て支援のPRにもつながっています。また、どのようなご家庭にもご利用いただけるようにふるさと納税の基金を活用した割引券も発行しています。さらに、中高生世代に対しては、総合福祉センター「ふれあい」の3階を改修し、勉強や友達との交流ができる若者の居場所づくりを6月29日にスタートしました。同じ階では高齢者の介護予防メニューも行っており、多世代が交流できる空間をつくることで、若い世代に多くの人と触れ合い、名張の良さを知って好きになってもらいたいという取組も始めております。今後は、予算を投資しながら、他市の成功事例である住宅補助金なども上手に取り入れ、成果が出るものにはしっかりと注力してまいりたいと考えております。